

連載

株式評論家 山本伸一の

兜町スタンダード

■ 指数は大台奪回！ そして「12月相場」へ



欧州債務懸念の再燃、中国利上げ懸念による短期調整を乗り越え、日経平均株価は1万円台の大台を奪回した。前回では、市場の「材料消化スピード」は思いのほか早く、金融緩和を切っ掛けとした「過剰流動性相場は息の長いテーマ」と題していたが、指摘通りの押し目買いが報われた方も多いのではないだろうか。

とくに「投資収益を効率的に伸ばし得る最適な物色対象」となるレポートテーマの「20万円以下で買える優良低位株」が好パフォーマンスを演出。活況相場のなか、資金効率の高い「買いの回転が効く銘柄」に注目が集まっている。

しかし、来週からは「12月相場」が始まる。前半から中盤にかけては、年末相場特有の節税対策の換金売り、メジャーSQが控え、例年波乱含みだが、後半には「掉尾の二振（とうびのいらしん）」の期待もあり、過去の傾向を踏まえ、微妙な市場心理の変化に上手く相場観を合わせれば比較的乗り切りやすい月でもある。

ただ、この「過去の傾向を踏まえ、微妙な市場心理の変化」を読めない方が大多数だ。冒頭で記したような確固たる全体観や物色対象も定めきれず、弊社に対する投資相談も増えてきた。そこで、弊社では私の長年にわたる「ディーリング経験をもとめた」株式投資先読みトレード」を販売中。相場観の構築や地合いに応じた物色対象の選別に興味のある方は弊社に直接問い合わせしてほしい。